

株式会社TAYASU

http://www.yousetuya.com/ (溶接屋.com)
 http://www.tayas.jp/ (株式会社TAYASU)
 http://www.bbcan.jp/ (パーベ缶)
 http://www.homra.jp/ (炎)

所在地：福井市北楯原町13-26

電話番号：0776-59-1358

代表者：田安 繁晴氏

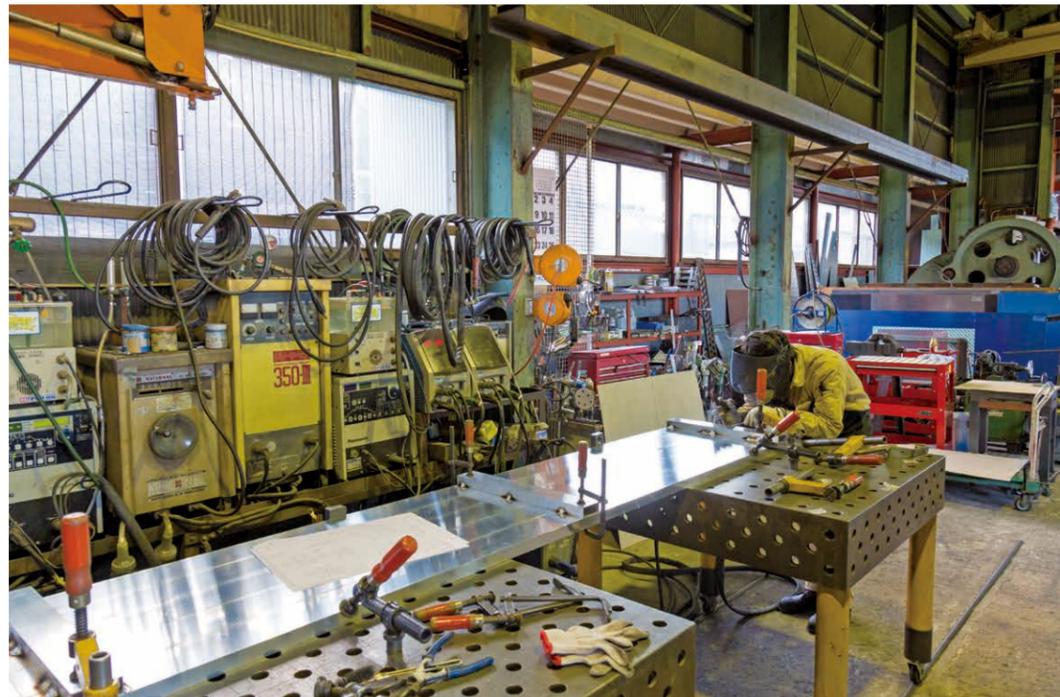
資本金：300万円

従業員数：5名

事業内容：金属製品加工・修理・注文製作、パーベキューグリル「パーベ缶」・移動式石窯「HOMRA」製造販売



溶接部材を固定する作業。協力し合いながら進めます。



法人化し従業員も増やしている同社。若手の育成や体制づくりなどを日々進めています。

①親族内承継

事業承継弾みに、組織体制をより強固に

株式会社TAYASU

株式会社TAYASUは福井市北楯原町に拠点を置く鉄工所。鉄鋼の溶接などB to Bによる受託業務のほか、個人向け溶接受注サイトの運営、自社ブランドによるパーベキューグリルや薪オーブンの開発・販売などを手掛けています。代表取締役・田安繁晴氏が事業を継いで3期目。これまでの経緯を振り返っていただきました。

10代、福井高専在籍時から「いずれは家業を」と意識

同社は1972年、現会長田安茂氏が創業。当時は、県内工作機械メーカーからの依頼による機械部品製造が業務の中心だったといえます。

繁晴氏は福井高専(鯖江市)機械科を卒業後、関西の大手化学メーカーに就職し、メカトロニクス技術を活用した業務などを行っていました。「小さいころから家の仕事を手伝っており、高専時代から家業を継ぐという意識をなんとなくは持っていました。メーカーに就職したのは、家業に就く前に外の世界を知っておきたかったからです」と振り返ります。

長男が生まれたのを機にメーカーを退職し、94年5月から茂氏と共に鉄工所で働くことに。当時は水処理施設向けのチェッカープレート(縞鋼板)の注文が次々と入り、月産100セット〜200セット体制が続いて「一日中プレートの溶接をしているような状況」だったそうです。「子どものころに見ていた現場とはずいぶん様子が違って

したね。東京や大阪などから品物が送られてきて、父から『いったいどの仕事をやっているのか』とか『お金はいくらなのか』などと言われたこともありすが、思い切りやらせてくれたのはありがたかったです。

「自社商品開発を機に「企業」への転換を意識

親子二人三脚の家業から「企業」への転換を意識したしたのは7年ほど前でした。年間を通して売上高の平準化を図ろうと自社商品開発を模索し、支援センターデザイン

で、作業をしながらも違和感を持っていました。

他方で、豆腐店の製造現場で使われる流し込み用の型や菓子製造機械の部品など、機器メンテナンスに関する仕事も間屋を経由して舞い込んできました。これらの部品はアルミやステンレス製であることが多く、扱う素材の引き出しを増やすには絶好の機会だったといえます。

ネット活用にも注力 個人向け溶接受付け付けも

メーカー在籍時代の経験を活かし、インターネットの活用にも早くから取り組みました。97年、福井県機械工業青年会に入会したのを機にホームページの必要性を認識。チェッカープレートの紹介や会社概要などを載せたホームページを作った公開しました。ふくい産業支援センターが行う「IT研修」にも積極的に参加。2004年2月、個人向け溶接受注サイト「溶接屋ドットコム」の運営も始めました。

「ネットでの溶接受付けは自分ができる範囲で始めました。振興部が行う「デザインアカデミー」に参加。サイト運営を通じて得られた顧客の声や自社の強みを組み合わせた小型パーベキューグリル「パーベ缶」などの開発に取り組み始めました。

「受託とは違い、自社商品なら閑散期にある程度のストックを作ることができました。ただ、いつまでも自分が製造に携わっていると新商品の企画や設計が進まなくなり、社員増員の必要性に迫られました」。就業時間のあいまいさなど、家業であったがために生じていた諸問題の改善も進めていきました。

13年10月の事業承継を機に、それまで「田安鉄工」から「株式会社TAYASU」へ法人化した同社。繁晴氏は「20年以上現場仕事に携わり技術は磨けたと思うのですが、会社経営の考え方を磨く



現会長の父 茂氏と。確かな技術は繁晴氏に受け継がれています。



田安 繁晴氏

はまだまだこれから」と、県内の上場企業トップが主催する経営塾に通い修練を重ねている真つ最中といえます。今年で50歳となる繁晴氏は、60歳をめどに経営の立場から退く意向を持っている。「職人は一生の仕事ですが、企業の永続性を考えるなら経営はどこのタイミングで区切りを付けた方がいいと思います。あと10年と考えると残された時間は長くないですし、現場に100%委ねられる体制を作り上げて組織の形をより強固にしていきたいですね」と意気込みます。